

核兵器と 反人道罪のない世界へ

Towards a World Without Nuclear Weapons and Crimes Against Humanity



先着450人
入場無料
〈事前申込不要〉
直接会場へお越しください。

©ICC-CPI

2017年の核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)に続いて、2018年にノーベル平和賞を受賞したのが人道に対する犯罪の根絶を求めるイラクのヤジディ教徒ナディア・ムラドさんとコンゴ民主共和国のデニ・ムクウェゲ医師であったことは、核被害を含む深刻な人権侵害に対する国際社会の関心が高まっていることを示しています。これは核兵器禁止条約の採択や国際刑事裁判所の創設と活動に例示されるように、究極の暴力である核兵器や人道に対する犯罪を規制・廃絶するための法制度が形成・整備されつつあることによっても裏付けられます。

本シンポジウムは、核兵器の使用を含む暴力の連鎖を断ち切る方途を被害者の声、およびそれを伝えるメディアの役割や国際社会の取り組み、そして法による規制などの諸観点から探るものです。

広島・長崎の経験を現代の人権法と人道法の到達点という広い文脈から意味づけることは、核廃絶の道筋のヒントを探ることにもつながるでしょう。

人道に対する犯罪などの深刻な人権侵害の根絶という課題に対する国際社会の取り組みの過去と現在を、特に国際刑事裁判所を中心とする実施の仕組みの観点から検討し、今後の課題を明らかにするとともに、私たち市民社会の行動について考えます。

■ 基調講演者

尾崎 久仁子 (国際刑事裁判所判事)

■ 特別講演者

平岡 敬 (元広島市長)

■ 報告者

真山 全 (大阪大学大学院国際公共政策研究科教授)

望月 康恵 (関西学院大学法学部教授)

瀬谷 ルミ子 (日本紛争予防センター理事長)

■ 討論者

吉田 文彦 (長崎大学核兵器廃絶研究センター長)

宮崎 智三 (中国新聞社論説主幹)

■ 若者からの提言

中国新聞ジュニアライター (中高生記者)

■ モデレーター

佐藤 哲夫 (広島市立大学広島平和研究所教授)

日時

2019年12月15日(日)

13:30 ~ 16:30 (開場 13:00)

会場

広島国際会議場地下2階 ヒマワリ

広島市中区中島町1番5号 平和記念公園内

主催 / 広島市立大学・中国新聞社・
長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)
後援 / 広島市・(公財)広島平和文化センター